



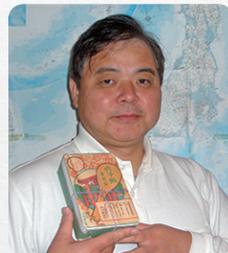
趣味を通じた生きがいづくり

十人十色

上杉 剛嗣 さん

高校教諭

【うえずぎ・つよし】静岡県在住の駅弁愛好家。これまでに6000食以上の駅弁を食べ、掛け紙の収集は1万枚以上。著書に「駅弁掛け紙ものがたり」（けやき出版）、「駅弁読本」（権出版社）がある。



Vol.6 駅弁の 掛け紙収集

駅弁の掛け紙は追憶の扉

——上杉さんは駅弁の掛け紙を収集されているそうですが、始めたきっかけは何だったのですか。

中学時代、北海道へ旅行した帰り、青森駅で上野行きの特快列車に乗りました。駅のホームで買った幕の内弁当の掛け紙が、ねぶた祭りの武者人形をあしらった大和絵で美しく、駅弁を食べた後に捨ててしまうのは惜しいと思ったことがきっかけです。その掛け紙は家に持ち帰り、アルバムに貼って収集第1号となりました。

——掛け紙のどこに惹かれますか。

掛け紙には、駅弁に使われる食材が描かれていたり、駅付近の観光名所や案内図が描かれていることが多く、駅弁を食べる前からワクワクして想像力が掻き立てられ、旅情を感じることができます。また、掛け紙を持ち帰り眺めることで、楽しかった鉄道旅を思い出すこともできます。駅弁を単にグルメとしてとらえるのではなく、旅情や郷愁をいざなうアイテムの一つと考える時、駅弁の掛け紙は追憶への扉となるのではないのでしょうか。

——掛け紙は、どのように保管されているのですか。

地区別などに分類し整理棚に重ねて入れています。古書店等で手に入れた年代物は、虫がつかないように抗菌のクリスタルパックに入れています。おそらく、全部で1万枚は超えているでしょう。

——掛け紙収集について、周囲の反応はいかがですか。

掛け紙の1枚1枚は紙切れで、それほど場所を取らないので、家族にはそれほど迷惑がられていないと自分では思っています。「掛け紙はその時代やその土地を雄弁に物語っている生き証人である」と理解した時、単なる紙切れではなく日本独特の文化としてとらえてくれるようになります。

——掛け紙収集のための探訪先は、どのように見つけられているのですか。

ウェブニュースのお気に入りワードに「駅弁」と入れておくと、新作の駅弁情報が得られます。また、駅弁屋のウェブサイトなどを閲覧して情報を得ることもしばしばです。

——掛け紙収集のための旅の頻度は、どのくらいですか。

最近では本業の仕事に追われ、なかなか駅弁の旅に出られ

ませんが、それでも最低月1回は駅弁を目的に探訪しています。宿泊を伴う駅弁の旅は、地元静岡を起点として、直近1年間で北海道1回、東北2回、北陸2回、近畿5回、中国四国2回、九州2回など訪れていて、日帰りができる関東甲信越はさらに探訪回数が多くなります。

——お気に入りの掛け紙は？

1枚にしぼるのは難しいですが、大正ロマンを感じられる戦前の掛け紙や、その土地の雰囲気がブーンと匂ってくるような臨場感あふれる絵柄の掛け紙は好きですね。観光案内図が描かれている掛け紙も、見ているだけで旅情が掻き立てられます。

——他の掛け紙収集家や駅弁愛好家と交流されることはありますか。

ありますよ。同好の士ですから、会えばマニアックな話になります。また、駅弁の掛け紙に関する本を出したり、たまにメディアに出て掛け紙の魅力を語ることもあります。

——この趣味を始められて、何か変わりましたか。

自分で言うのもなんですが、趣味を続けることで、人間としての幅が広がったような気はします。

——今後の目標を教えてください。

最近はパッケージタイプの駅弁が増えて掛け紙タイプは少なくなってしまい、残念に思っています。しかし、私にとって駅弁の掛け紙は、駅弁を日本独特の文化としてとらえるきっかけとなったものです。その駅弁文化を絶やさないように微力ながら応援し、その魅力を発信し続けることが私の目標です。



写真左：東海道本線浜松駅「うなぎ飯」（昭和9年）は現在でも続く高級特殊弁当の定番駅弁 写真右：南海電鉄難波駅「難波駅弁」（平成17年）は南海電鉄創業120周年を記念した限定駅弁